

第3学年の実践 令和6年度 社会科「暮らしとお店」

【育成を目指す創造的な資質・能力の素地】

お店で働く人の工夫について調べる学習を通して、実社会で活躍する人などとの対話を大切にし、問題の発見・解決に資する情報収集に進んで関わろうとする態度を身に付ける。

知る 見つける

①相手意識をもって取り組むための単元設定

よく買い物に行くお店やその理由、主に何をかうのかを家の人に質問するところから学習を始める。お店選びの理由や根拠について知ること、消費者がお店に求めていることを知り、その思いに応えるようなお店の工夫に目を向けることができるようにする。



知る 見つける

②「人・もの・こと」と関わり探究する学習の流れの工夫

「お店ではたらく人たちは、たくさんの人に来てもらうためにどのようなふうをしているのだろう。」という学習問題に対して、フィッシュボーンを用いて予想を十分にできるようにする。そうすることで、スーパーマーケット見学に主体的に取り組めるようにする。



考える やってみる

③自他のよさに気づき生かすための話合いの場の設定

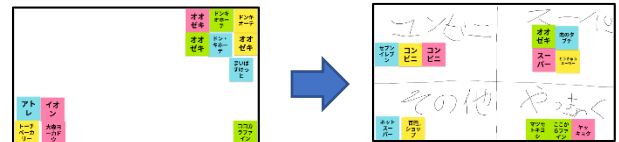
思考ツールのフィッシュボーンで学習問題に対する自分の予想を考えた後に、考えを共有するための場を設定する。グループで、自分の考えとその理由について交流することで、さらに友達の意見からも考えを広げられるようにする。



考える やってみる

④多様な表現や関わりを生み出す ICT の活用

単元の導入で、よく買い物に行くお店について調べた結果を Jamboard に入力する。その後、分類することで、どの家庭もスーパーマーケットに行くことが多いことを捉え、学習問題につなげていく。



令和5年度 総合的な学習の時間「大田区のよさをしょうかいしよう」(学習の流れ)

知る 見つける

大田区のよさを考えよう

これまでの学習や生活体験から、児童が他のクラスや2年生に伝えたい「大田区のよさ」を決め、課題を設定する。

考える

テーマについて調べよう

インターネットや資料を活用して「大田区のよさ」について情報を収集する。集めた情報を整理してまとめ方を考える。

やってみる

しょうかいしよう

模造紙にまとめた「大田区のよさ」について、グループごとに紹介をする。他のクラスや2年生に紹介をして、感想をもらう。

